

平成24年度子どもの読書活動推進事業

# 読み聞かせビト養成講座

第1回 「読み聞かせの目的と読み方のポイント」

岩手県教育委員会生涯学習文化課  
主任社会教育主事 佐藤 敦 士



平成24年6月20日（水）

久慈市・夏井公民館

# 1 何のために、読み聞かせをするの？

あなたの考える答え（目的）を、  
書いてみてください。



•  
•  
•

絵本「読み聞かせ」のすごい力 10カ条 (柳田邦男著 「みんな、絵本から」より)

絵本は・・・

- 1) ことば（言語力）を発達させる。
- 2) 感性・感情をきめ細かく発達（心を豊かに）させる。
- 3) 文章理解力を発達させる。
- 4) 心に絵本の内容が現実体験のように深く染み渡って記憶される。
- 5) 子どもが自分で時間をコントロールすることができる  
唯一のメディアである。
- 6) 親も心穏やかになり、やさしく子どもに接するようになる。
- 7) 子どもも心穏やかで素直になる。
- 8) 親が子どもと生身で触れ合う機会（時間の共有）を取り戻す。
- 9) 大人になってからも心のふるさとになり、生涯の心の財産になる。
- 10) 大人たちがグループで互いに読み聞かせ、心を癒すことができる。

< メモ >

.....  
.....  
.....

自分の経験やいろいろな人の意見（書物・HP）を参考に、自分なりに納得しているところ  
をまとめました。

「これでなければならない」ということではございませんし、私も皆さんから学びたいと  
思っております。話題提供のつもりですので、この後、そして各グループに戻られた後、  
話し合ってください。資料としていただければと思います。

## 2 立場によるちがい。

### お母さん、わたしを見て！

お母さんのおっぱいは、おいしい。でも……。

お母さん、わたしを見て！

どこを見てるの？ 手に持っているのは何なの？

なんで、そればかり見てるの？

お母さんの、お腹のなかにいたとき、おかあさんはあったかかった。

ぜんぶ、包んでくれた。……なつかしい。

おかあさん、わたしを見て！ わたしはここよ。

わたしをひとりぼっちにしないで！

お母さんが手のなかで、ピコピコうごかしているもの、

そんなに大事なの？

(柳田邦男著 「みんな、絵本から」より)

### 親子では……

親が子に、絵本を読んできかせる……それは親子の時間の共有。

一緒にいる、同じものを見て語らい心通わせる、大切なひと時なのだと思います。

そこに、上手く読むも、こうしなければならぬも必要ないのではないのでしょうか？

ただ、文字を声にしてあげればいい……それだけです。

子どもの幸せそうな顔を見たい……その顔を見ると自分も幸せになる。

だから、絵本を読む。

親子の「読み」に押し付け（強制）や教育的な考え（国語教育）はいりません。

難しく考えることなく、親子の幸せな時間を過ごしていただきたいと思います。

子どもが「子ども」でいる時間を、楽しんでほしいと思います。

そんな「絵本」の魅力を、読み聞かせボランティアの皆さんは、若いお父さんやお母さんに伝えて欲しいと思います。

.....

.....

## 読み聞かせボランティアの皆さんは・・・

大勢の人の前で「絵本」を読む皆さんの場合は、どうでしょうか？

保育所、幼稚園、小学校の広い空間で・・・。

5人程度の時もあれば、20人程の子どもたちを前にすることもあつてしょう。

子どもたちの幸せそうな顔や笑顔が見たい。

子どもたちに幸福な気持ちになってもらいたい。

目指すところが同じでも、親子のような親密な関係でもなく、

また10人の子どもがいたら、子どもの興味や反応も10通り・・・。

そこでは親子と同じように、「ただ文字を声にして、時間を共有すればいい」という読み聞かせ方は通用しませんよね。

広い空間でも、すべての子どもにも声が届くように・・・。

子どもたちに、ちゃんと絵が見えるように・・・。

子どもたちに、絵本の内容が伝わるように・・・。

そこで、『配慮』という名前のテクニックが必要になってくると思つてます。

「技術論」に走るつもりはございません。

ただ、子どもたちに伝わらないと、絵本の魅力や読み手の思いは半減します。

子どもたちに読み聞かせる者として、最低限、聞き手である子どもたちに寄り添い、

伝えるための心配りは必要なのだと思います。

それができているかどうか・・・他の人に見てもらって評価しあい、学びあうことが大切です。そういう仲間をつくって欲しいと思つてます。

子どもの前に立つ人は、子どもを「子ども」扱いしてはいけないと思つてます。

練習も努力もせず、子どもの前に立つのは、子どもに対して失礼だと思いませんか？

子どもは、するどいんです。「子どもだまし」は、ききません・・・。

### 50%

#### 学びのポイント①

皆が好意的なら、うぬぼれてダメになる。

皆が批判的なら、萎縮してダメになる。

自分を向上させてくれる、好意50%、批判50%。

だから、「批判」も有り難い。

有り難い貴重な意見に、ありがとう。



## 悩みが生じたら・・・

読み聞かせをされていて、悩みが生じたら、原点に戻りましょう。

自分は、なんで読み聞かせをしたいのか？自分の気持ちに素直になりましょう。

何のため？・・・それは、子どもたちに幸せな気持ちになって欲しいから。

誰のため？・・・それは、すべて子どもたちのため。

(それが自分にとっても幸せなこと。楽しい時間を共にしたい。)

自分の「読み」は、それに相応しい「読み」になっているだろうか？

自分は、聞き手（子ども）に寄り添っているだろうか？

自己満足で終わっていないだろうか？



### 我

「私が、私が」という、「我（が）」の強い人。  
「頑張る（＝我張る）」必要はありません。

「我慢」の源は、「**我の慢心**（うぬぼれ）」。  
「我慢（**我の慢心**）」なければ、「我慢（忍耐・辛抱）」なし。  
慢心せず（うぬぼれず）、謙虚に・・・。謙虚に・・・。  
強い「思い」は、「**重い**」です。

学びのポイント②

.....

.....

.....

.....

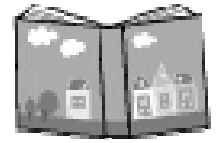
.....

### 学び

聖者は、「天の道」に学び、賢者は「地の理」に学び、知者は、「古き人」に学ぶ。  
「学ぶ者」は、「学ばない者」からも学び、  
「学ばぬ者」は、目の前に「学んでいる者」がいても、その姿から何も学ばない。

学びのポイント③

### 3 子どもたちに絵本の魅力を伝えるために。



#### 絵本の選び方

##### (1) 「満25歳以上の絵本を選びましょう。」というけれど。

絵本を選ぶときは、「満25歳以上の絵本」と言われます。25年以上も前に出版され、世代を越えて今もなお読まれるロングセラーですから、その内容に間違いはありません。

しかし、新しい絵本が、今の子どもたちにリアルタイムで、感性に訴え、楽しいということも事実だと思います。25年前の時代背景は、今の子どもたちにとっては昔話でしょうから・・・。

「不易（本質的なもの）」と「流行（今にあったもの）」どちらも大切です。

##### (2) 「読みたい本」と「向いている本」

絵本が好きな皆さんは、「読んであげたい本」があることでしょう。しかし、あなたの声が、その絵本の内容にあっているかどうかは別かかもしれません。

あなたが、別な絵本の適任者であれば、「向いている本」が優先され、あなたの「読んであげたい本」は、その絵本の適任者に読んでもらうほうが、それぞれの絵本の魅力が引き出されます。

グループの事前打ち合わせって、大事なことだと思います。

##### (3) 子どもにも選ばせてあげたい。

最初から、「今日はこの絵本を読む」とプログラムを決めず、多めに絵本を準備して、その場で子どもたちに選ばせてあげると、聞き手の子どもたちの意識は「受け身」ではなく、主体的に読み聞かせ会に参加するようになります。

おもしろく軽い内容の絵本で、会の中間あたりで気持ちの切り替えを！

#### 絵本の持ち方

##### < 読む前にしておくこと！ >

##### (1) カバーをはずす。

読んでいるうちにカバーがめくれてきたりすると聞き手の注意がそがれますので、カバーは前もってはずしておきましょう。



## (2) 開き癖をつける。

新しい本は開きにくいので、両端にいる聞き手に絵が見えにくくなります。読む前に1ページずつしっかり本を押して開き癖をつけておきましょう。開き癖のつけ方は、表紙からと裏表紙から、交互に1ページずつ開いてゆきながら丁寧に押さえてつけます。こうすることでどのページも均等に癖がつきます。

## (3) 下読みをしておく(必ず)。

### ① 黙読する

まずは黙って読もう。

声を出して読むと、それが耳に残って誤読のもとになる。

### ② 微音読する

内容を把握するため、小さく声に出して読む。

### ③ 口ならし読み

どこで切るかなどを考え、鉛筆で区切るところに印をつけながら読む。

### ④ テスト読み(本番をイメージしての練習)

## (4) 本の破れ、汚れが無いかを確認しておく。

### < 読み聞かせを始めよう! >

#### (1) 表紙を見せて、タイトルと作者、画家の名前を読む。

一般に縦書きの本は体の左に、横書きの本は右に持つと読みやすいと言われてい

ます。要は聞き手が自分でページをめくっているような感覚で見せるのが自然だということ、読み手にとっても、そのように持った方が文章が見やすいです。

どうしても決まった手で持たないと読めないという人は、無理をしてこの通りにしなくてもいいです。



#### ★作者名、画家名は必ず読むべきか？

読まなくてもいいのではと思う方もいるかもしれませんが、作者への礼儀として、また、聞き手に伝えるべき情報として、読んだ方がいいと思います。お気に入りの作者の名前を覚える子どももいます。

#### ★立つか座るか？

聞き手が椅子に座っている場合 → 読み手は立つ。

聞き手が床に座っている場合 → 読み手は椅子に座る。

教室で行う場合、机や椅子をどけて床にかたまって座って聞いてもらうのがベストですが、無理な時は椅子を持って見やすい場所に移動してもらいます。

## (2) 見返しを見せる

表紙をめくったら見返しを飛ばして本文に入らないようにしましょう。

ページを飛ばされると見る側は気になるものです。見返しにも作者は神経を配っています（たとえば『スーホの白い馬』の見返しは何も描かれていませんが、モンゴルの砂の色をしています）。



見返しからすでに物語は始まっているのです。きちんと見せてあげましょう。

## (3) 本文のタイトルを読む

もう一度タイトルを読みます。

表紙で作者名を読んだ場合、ここでは読まなくてもよいでしょう。



## (4) ページをめくる

ページをめくるときは、胸の横に本の端を当てて支え、片手で本の下中心を持ち、もう片方の手でページの下端を持ってめくるとグラグラしません。

めくった直後は聞き手の視線が絵に集中します。本文を読むのは一拍待ちましょう。



## (5) 本文を読む

読むときの持ち方も、(4)のページをめくるときと同じですが、本を胸の端に当てていると文字が近すぎて見えにくい場合は、心持ち本を体から離し気味にしてもいいでしょう。

このとき、端に座っている聞き手にも絵がよく見えるように、本を出来るだけ水平に開きましょう。

また、本が上にそり気味になると座っている子どもから見えにくいので、上部をやや下に傾き加減にして持つといいと思います。



ページをめくった直後は、聞き手の注意は絵に引きつけられます。すぐに文章を読まずに一拍置きましょう。

ただ、スピード感のあるページに限っては、あまり間をあげすぎるのもよし悪しなので、そこは臨機応変に！

## 『感情を入れずに淡々と読みましょう』とは？

「感情を込めて読むことにより、作品のイメージが固定化してしまう。」ことや「読み手の解釈を聞き手に押し付けてしまうことになる」・・・という理由から、『感情を入れずに淡々と読みましょう』とよく言われます。

聞き手が、何の制約を受けずに作品に対して自由に想像を膨らませるためには、読み手の感情は妨げになるということです。

それでは、『感情を込めずに淡々と読む』とは、どういうことでしょうか？  
「一本調子の棒読み・・・」ということでしょうか？

「一本調子の棒読み」では、読み聞かせが楽しい時間になるとは思えません。また、読み手が絵本を選び、読み手を通して絵本の内容が聞き手に伝えられる以上、自然と読み手の解釈や感情は入ってくるものだと思います。

そこで、「何のため？、誰のため？」の原点に戻ります。  
読み聞かせには、読み手と聞き手がいて、聞き手のためにおこなうものですから、常に聞き手を意識していなければいけないと思います。

ですから、聞き手を無視した独りよがりの感情で読むのはいけないと思います。  
聞き手に聞いてもらおうという気持ちが無ければ、誰も耳を傾けてはくれません。

また、大げさに感情を込めることにより、聞き手が引いてしまうことがあってもいけないと思います。  
自分の思い入れに任せて、大げさに感情的に表現して、気持ちいいのは読んでいる本人だけ・・・です。

『感情を込めずに淡々と読む』とは、一本調子の棒読みをしなさいということではなく、「読み手の独りよがりにならないように注意しましょう」ということなのだと思います。絵本の求めに応じた読み方、自然な表現は必要だと思います。読み方は、会話は会話で、説明は説明で、絵本の流れに応じて、絵本の求めに応じて、自然に心を含めて、・・・でいいのだと思います。



## その他の「読み」の注意事項・・・

- ★ 本ばかり見ず、聞き手である子どもたちを見て、目配りを忘れないように。反応を見て、ざわざわしているようなら、しばらく黙っていることも必要。
- ★ 人は後追いしながら聞くので、間を取りながら内容を理解できるように、ゆっくり読みましょう。流暢に読みすぎでは聞く人がついていけません。
- ★ 一生懸命さが相手に伝わると相手がくたびれます。力を抜いて自然体で。
- ★ 質問攻め、説明攻めをすると、子どもたちは物語の世界に入れません。絵から読み取ってほしいのであれば、絵を見る時間をゆっくりとってあげましょう。読み聞かせは「国語」ではないのですから、余計な質問・解説は不要です。

### (6) 後ろの見返しも見せる

本文が終わったら後ろの見返しも飛ばさず  
しっかり見せましょう。



### (7) 裏表紙を見せる

余韻を持たせて、ゆっくりと「おわり」または  
「おしまい」と言って締めくくります。  
裏表紙を見せなかったり、見せてもそそくさと  
見せて終わりというのではなく、最後までしっかり  
見せましょう。



特に裏表紙まで物語が続いている作品は、  
必ず見せてあげてください。

たとえば右の例を見てください。『はじめてのおつかい』という絵本です。  
本文ではママに頼まれて牛乳を買いに行ったみいちゃんが、無事帰り着くところで  
終わり・・・となりますが、裏表紙には転んで  
すりむいた傷に手当てをしてもらい、牛乳を飲  
んでいるところまで描かれています。  
裏表紙の絵まで見せてこそ、読んでもらう  
子どもたちはホッと安心し、本当の物語の結末を  
迎えるのではないのでしょうか。



## (8) 最後にもう一度表紙を見せる

再び表紙を見せて、「『しっぺいたろう』というお話でした」とタイトルを言っておしまいにします。

また、右の「いっすんぼうし」の例のように、表紙と裏表紙がつながった絵になっているものもあります。そういう本は最後に開いて見せてあげましょう。



### 読み聞かせ会が、終わったら…。

幸せな気持ちになっている子どもたちには、その余韻にひたらせてあげたいです。そこで、感想を強要しないであげてください。これが基本だと思います。「どうだった？」と聞かなくても、子どもたちの表情からわかると思いますし、その様子を見て、すでに皆さんの心もあたたかくなっていると思います。

もちろん、感じたことを言いたくてしかたがない子もいると思います。その子の思いは、時間の許す限りいっぱい聞いてあげて欲しいと思います。

### < ページのめくき方：悪い例 >

#### (1) 手で絵を隠してしまう

無造作にめくると、この例のように手で絵を隠してしまうことがあるので気をつけてください。また、うっかりして2ページ一度にめくってしまうこともあります。それをすると聞き手の注意が一気にそがれてしまいます。下読みをしっかりと注意しましょう。



#### (2) 手にツバをつけてめくる

#### (3) ページの端を持たず、手でページの中央をクシャッとわしづかみにしてめくる

#### (4) 大きな音を立ててめくる

## <本の持ち方：悪い例>

### (1) 後ろに傾けてしまう

横から本をのぞきこんで読むのは結構読みにくいので、ついこんな読み方をしてしまいがちです。

見る側からはとても見にくいので注意が必要です。



### (2) 閉じ気味にしてしまう

これも上の例と同じく、字が読みにくいとついやってしまいます。



### (3) 左右に傾いてしまう

これは読み手自身なかなか気づかないので、意識して真っ直ぐ持つようにしましょう。本を支える腕を体につけて、まっすぐに伸ばすと傾きにくいです。

鏡に映したり、夜、窓に映して感覚をつかむのも効果的です。



### (4) 本を持つ手で絵を隠してしまう

これも無意識のうちにやってしまいがちですね。



誰もが、「どうやったらいいのか、これでいいのか」と不安を抱え、やり方（方法）を求めているのに、「こうすればいい」というやり方（技術）を知ると、「難しそうだ、面倒だ」と思ってしまいます。

でも、ちょっと待ってください。これらのやり方（技術）も、子どもたちに聞こえるように、見えるように、伝えるにはどうしたらいいのか・・・という『配慮・心配り』からきているものです。

難しく考える必要はありません。そこさえ押さえさえすれば、自然とそういう「読み方」になっていると思います。

「聞き手である子どもに寄り添い、絵本そのものを伝える」・・・だけです。  
子どもと絵本が好きな皆さんは、子どもと絵本の思いを大切にして読めばいいのです。

## 4 自分のために。

これまで、子どもたちのために・・・とお話をしてきましたが、ここからは皆さん自身のためにというお話をします。

### (1) 自分も幸せに・・・。

「読み聞かせ」は、子どもたちが幸せな気持ちになるためにするものですが、その子どもの様子を見て幸せな気持ちになるのは皆さん自身でしょう。キラキラした瞳、真剣なまなざしで絵本の世界に入り込んでいる子どもたちの姿、無邪気に笑う子どもたちの姿は、本当に愛くるしいものです。

### (2) 生涯にわたって成長を・・・。

その究極の至福の時を共有した人は、「読み聞かせ」をやめられない・・・と思います。子どもたちを幸せにして、またその瞬間を味わいたい・・・と思うに違いありません。

であれば、もっと良いものを子どもたちに提供したいと思うでしょうし、「今の自分でいいのか」と、もっと学びたいという意欲が湧いてくることでしょう。ライフワークとして、生涯にわたり自己を高めていくものにめぐり合えたのです。

### (3) かけがえのない仲間の輪が・・・。

人間は弱いもので、自分には甘くなりがちです。自己を高める時、「ひとり」では限界があります。また、自分自身では気づかないところもあるでしょう。だから、互いに学び、高めあう仲間が必要です。そういうかけがえのない仲間つくることができ、また広がっていきます。

**自分にも、いいことばかり。そういう意味では、自分のため。さあ、自分のために楽しもう！**

## 5 まず、やってみよう。

「読み聞かせ」をしていて、失敗することもあるでしょう。また、子どもたちの反応が悪い時もあるでしょう。・・・いいんです。そんな時もあります。

ただし、どうして失敗したのか、反応が悪かったのかは、しっかり考えてください。読み込み不足だった、絵本が難しすぎた等、原因が分かれば改善できますから・・・。

「失敗」は、してもいいのです。大切なのは、失敗から何を学んだか・・・です。「失敗」したから、学べたのです。

**子どもたちが、あなたが来るのを待っています！ 今日にも元気に、張り切っていきましょう！**

## 今日という日は…

学びのポイント④

今日は、ふたつの特別な日。過去の人生の最後の日。  
これまでの人生で一番、経験と知識を積み重ねている時。  
そこでの決定は、自分が下せるこれ以上ない最高の決断。  
その時点において、ベストの決定。自信を持って実行しましょう！

時間を経て・・・、その時の決断を「後悔」するのは、  
時間を経た分、さらに成長した自分が過去の自分の未熟さを感じるから。  
「後悔」は、その分自分が成長した証。  
己の未熟さに気づいた自分を喜ぼう。

今日は、ふたつの特別な日。明るい未来の最初の日。  
これまでの未熟さを反省し、これからに向けて歩き出す時。  
止まらずに、同じ失敗を繰り返さないよう新たな一歩を踏み出そう。

## 6 「学び」は、誰のため？

誰のために学ぶのですか？何のために学ぶのですか？  
その答は、ふたりの物語にあります。

学びのポイント⑤

### ジコトザーン・ノボリミッチ と ジョージ・クラベル の物語。

2人の物語を、知っていますか？  
あなたは、どちらの生き方に共感しますか？

ジコトザーン・ノボリミッチ \_\_\_\_\_

ジョージ・クラベル \_\_\_\_\_

**研修会や仲間との学びあいに、積極的に参加しましょう！あなたの「学び」のために。**

<参考文献・引用文献>

「みんな、絵本から」 柳田邦男；著 石井麻木；写真 講談者

「かならず成功する 読み聞かせの本」 赤木かん子；著 自由国民社

「よみっこ」ホームページ <http://www.yomikko.gn.to/>

「子どもの本棚」ホームページ <http://www.geocities.co.jp/SweetHome-Brown/>